

私を支える 至高の一冊

『ローマ人の物語』
塩野七生 著
新潮文庫 *文庫版は全43巻



この本に登場する、古代ローマの人々の考え方や行動は、非常に新鮮で共感できます。まだキリスト教もなかった2,000年以上の昔に自由に生きたローマ人たちは、私たちと何ら変わりません。科学や技術がいくら進歩しようとも、“こうすると誰かを喜ばせ、こうすると誰かを悲しませる” という心は同じなのです。

特に、国が栄える時よりも滅びる時の方が大切です。つまり失敗談です。人間も組織も、どう考え行動するとダメになるのか、そうした失敗談がこの本の中には数多く詰め込まれています。いくら豊かになり便利になろうとも、失敗を繰り返すところは私たちも同じです。

歴史上の数多くの登場人物に“出会えた”ことは、私の生き方にもつながっています。医師として研修医も指導する立場にありますが、若い彼らにいつもこう言っています。「成功よりも失敗こそ成長できる機会だ」と（もちろん、治療での失敗ではありませんよ）。失敗から学ぶこと、それは謙虚さであり、相手を思いやる心です。いくら手術が上手くても、人間性が伴わなければ医療人として失格です。ただ、若い人たちはいろいろな人と出会い、その人間性に触れるという機会がまだまだ不足しています。だからこそ、私たちと何ら変わらない古代の人々が、何を考えどう生きたのか、なぜ失敗を繰り返したのかを読み取って、相手の心を推し量れる人間になってほしいのです。

仙台医療センター
臨床研修部長
篠崎 毅 さん



*今回ご紹介した書籍を抽選で3名様にプレゼントします。P14をご覧ください。